

頂へ！カナディアンロッキーの名峰3座登頂 8日間



カナディアンロッキーの山頂を目指すことの価値

カナディアンロッキーでの登山の魅力は、その壮大な自然と圧倒的なスケールにあります。標高3,000メートル級の山々が連なり、氷河やエメラルドグリーンの湖、モミやトウヒの針葉樹林の森が織りなす風景は、まさに別世界です。しかし、トレッキングで山頂まで登れる山は決して多くはありません。

カナディアンロッキーで「山頂を目指す登山ルート」が少ない主な理由は、自然保護の厳しさと地形的な困難さにあります。多くの地域が国立公園や保護区に指定されており、生態系や地形の保護



が最優先とされているため、登山道の整備は慎重に行われ、ルートは限られた範囲にとどまっています。また、冬の気候条件が厳しく、標高差が大きいことや、岩場・急斜面が多いこともあり、登山ルートを整備することの難しさも大きな理由となっています。

だからこそ、カナディアンロッキーでのピークハントには特別な価値があります。数が限られているからこそ、一つひとつのルートに深い意味と魅力が宿るのです。山頂に自分の足で立つことは、ロッキーの壮大な自然と一体となり、そのスケール感を全身で感じる、かけがえのない体験です。『頂へ！カナディアンロッキーの名峰3座登頂 8日間』のツアーでは、ロッキーで絶対に登るべき三座を厳選し、連泊型の行程にすることで、6泊7日でも無理なく登山が楽しめる理想的な旅程を作り上げました。

第一座：ヤムナスカ・クラウン(Yamnuska Crown)

マウント・ヤムナスカは、アルバータ州のボウ・バレー州立公園に位置する標高2,240メートルの山で、カナディアンロッキーの東端にそびえる象徴的な存在です。その独特な南向きの岩壁は、



登山者やクライマーにとって魅力的な目的地となっています。この山は、先住民族の間で「Îyâ Mnathka(イヤ・ムナスカ)」として知られ、「平らな顔をした山」を意味します。その名前は山の特徴的な岩壁に由来し、また、「マウント・ジョン・ローリー」とも呼ばれ、先住民族と非先住民族の橋渡し役を務めたジョン・ローリー氏を称えています。

このマウント・ヤムナスカの稜線上にある標高2,037メートルの小ピークが、目的地であるヤムナスカ・クラウンです。東側から山を望むと、王冠のように見えることからその名が付けられました。登山口はキャンモアの町から車でアクセスでき、往復約9.5km、標高差約690mのコースです。トレイルは森林地帯から始まり、急峻な岩場やチムニー(岩に挟まれた狭い隙間)を通過して山頂に至ります。山頂からは、ロッキーの険しい山々と氷河が削った深い谷、広大なプレーリー(大平原)が会う劇的な景観が広がり、晴天時にはカルガリー方面まで見渡すことができます。断崖絶壁の山頂からの眺望はスリリングで、登山者に大きな達成感と感動を与えてくれることでしょう。



第二座:ハーリン・ピーク(Ha Ling Peak)

ハーリン・ピークは、キャンモアの南に位置する標高2,474メートルの山で、カナディアンロッキーの中でも特に人気のある登山スポットです。歴史的背景と登山の魅力が融合した特別な存在として、多くの登山者や観光客に親しまれています。



この山の名前は、1896年に初登頂を果たした中国系移民の料理人、ハー・リンに由来します。彼は、当時まだ小さな町であったキャンモアで働く炭鉱夫から「山頂まで10時間以内に登って戻るのには不可能だ」という賭けを受け、実際に約5時間半で登頂と下山を成し遂げました。しかし、その偉業を信じない人々も多かったこともあり、翌日に再び登頂し、大きな旗を山頂に掲げて成果を証明したという逸話が残されています。その後、山は「チャイナマンズ・ピーク」と呼ばれるようになりましたが、この名称が差別的であるとの指摘を受け、1997年に正式に「ハーリン・ピーク」と改名されました。この改名は、多文化共生と歴史的敬意を示す象徴的な出来事として評価されています。

登山口はキャンモアからスプレイ・レイクス・ロードを経由してアクセスでき、全長約7km、標高差約800mの往復コースです。2019年に大規模な整備が行われ、石段や手すりが設置され、安全性と環境保護が向上しました。道は急勾配ですが、技術的な難易度は低く、体力に自信のある初



心者から経験者まで幅広く楽しめます。山頂からは、谷間に佇む美しいキャンモアの町並みや、緩やかに流れるボウ川を眼下に望めます。周囲にはロッキーの険しい山々や氷河によって削られた深い谷が続き、360度のパノラマが登山者を圧倒します。アクセスの良さと絶景が両立するハーリン・ピークは、登山の達成感だけでなく、多文化的な歴史や自然の美しさを体感できる、特別な場所です。

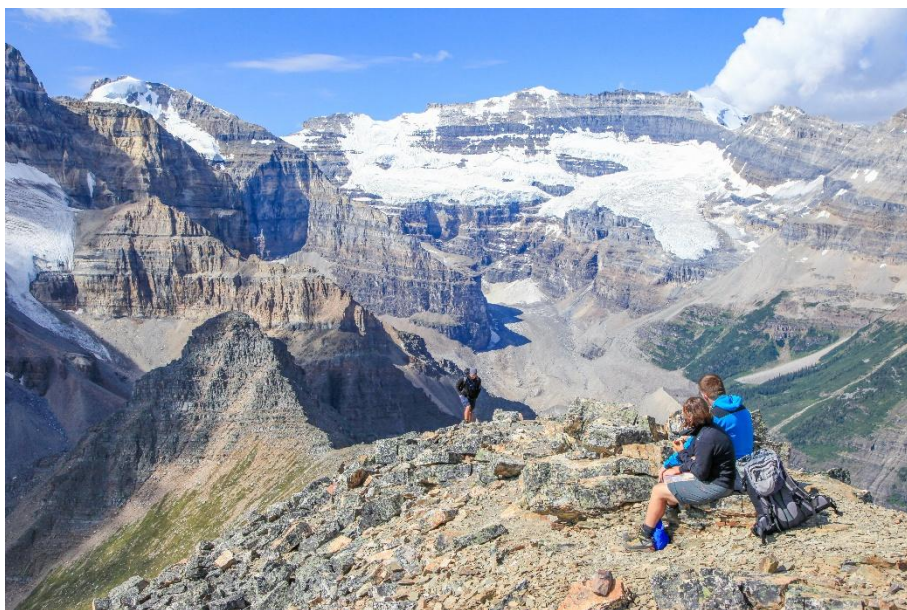
第三座:フェアビューマウンテン(Fairview Mountain)



フェアビューマウンテンは、バンフ国立公園内、レイクルイーズの南岸に位置する標高2,744mの山で、その名の通り「美しい眺望」を誇る名峰として知られています。1893年にアメリカの探検家ウォルター・ウィルコックスとサミュエル・アレンによって初登頂され、翌年、山頂からの絶景にちなんで命名されました。

険しい崖が特徴的でありながら、南側の斜面から登る登山道は良く整備されており、経験豊富なハイカーであれば比較的容易に登頂が可能です。登山道はレイクルイーズのカヌー乗り場近くから始まり、サドルバック・パスを経由して山頂へと続きます。全行程は約9.4km、標高差は約1,000mですが、往復6時間程度で歩くことが可能です。

山頂からの景色はまさに旅のハイライトと呼べるもので、ターコイズブルーに輝くレイクルイーズや、巨大な氷河を抱く高峰マウント・テンプルやマウント・ヴィクトリア、さらにボウ・バレーやスコークー・バレー、アイスフィールド・パークウェイなど、バンフ国立公園の雄大な景観を一望することができ、言葉にできないほどの感動と達成感を与えてくれるはずです。



人気のリゾートタウンに3連泊ずつする体に優しい行程

キャンモアとバンフにそれぞれ3連泊する旅程には、休息を取りつつ三座登頂に挑戦できるだけでなく、それぞれの街の魅力をじっくりと堪能できる大きな価値があります。二つの町は近接しつつも個性が異なり、それぞれにしかない雰囲気を持っています。



キャンモアは、地元の暮らしに溶け込んだ落ち着いた雰囲気が魅力です。バンフに比べると人混みが少なく、静かに自然と向き合いながら「暮らすように過ごす」時間を楽しむことができます。

バンフは国立公園の中心地であり、ロッキー観光の象徴的な拠点です。町の中心であるバンフ・アベニューは多くの観光客で賑わい、美しい山岳風景に包まれた街並みを歩けば、ここが世界的なリゾートタウンであることに誰もが納得することでしょう。登頂の達成感と、ロッキー滞在のすべてをバランスよく体験できる旅、それが、このツアーの最大の魅力です。





頂へ！カナディアンロッキーの名峰3座登頂 8日間

お申込みは
こちら

カナナスキスとバンフ国立公園の中から3つのピークを厳選し、日帰り登山でサミットを目指します。ハイキングの装備で登れる山でありながら、山頂からの景色はまさに圧巻。キャンモアとバンフの町、それぞれ3連泊を取り入れたゆとりのある日程で、ロッキーのサミットに挑戦する人気コースです。

発着地 東京

歩行時間 宿泊高度 宿泊施設 (全ホテル)

出発日～帰国日	旅行代金
残4 8/7(木)～8/14(木)	¥852,000



私がご案内します
石塚 体一
(いしづか たいいち)

- 燃油サーチャージ(2025年6月1日現在:目安約66,000円)が別途必要です。今後変更になる場合はご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。
- カナダETA(=電子渡航認証システム、実費7CADドル+申請料金4,400円、2025年6月1日現在、手数料・消費税込み)の取得が別途必要となります。
- ツアーリーダー(添乗員):カルガリーからカルガリーまで同行します。
- 最少催行人数:10人 ●食事:朝6回、昼4回、夕2回
- 利用予定ホテル:Cクラス以上。キャンモア/シャトー・キャンモア バンフ/プリュースター・マウンテン・ロッジ
- 一人部屋利用追加料金:¥168,000
- 利用予定航空会社:エア・カナダ、ウエストジェット航空

連泊型の日程でロッキーの名峰3座登頂に挑む!

ロッキー山脈は険しい岩山がそびえ立ち、見るものを圧倒します。このツアーでは特別な技術や装備を必要とせず、ハイキングで登頂が可能な山を厳選しました。ヤマナスカ・クラウン(2,037m)の山頂から望む、大平原とロッキー山脈の大パノラマ。ハーリンピーク(2,474m)は、キャンモアの町やボウ谷を見渡しながらか山頂を目指します。旅のハイライトはフェアビューマウンテン(2,744m)への挑戦です。標高差約1,000mの登りは、斜度も急で登り応え十分。山頂からの景色はまさに旅のハイライトで、間近に迫る3,000m級の山々と眼下に佇むレイクルイーズなど、圧巻の展望が広がります。



▲山頂で迎える歓喜の瞬間

ヤマナスカ・クラウン フェアビューマウンテン

カルガリー平原とロッキー山脈の360°の大パノラマを楽しめる標高2,037mの山頂へ。壮大な景観を目指して標高差687mを登ります。スタッフ2名体制でのご案内。



▲ヤマナスカ・クラウン山頂の大パノラマ

ロッキーの宝石と称されるレイクルイーズからスタート。標高差1,000mを登って標高2,744mの山頂までは、変化に富んだロッキーならではの登山を楽しめます。



▲言葉にできないほどの達成感が待っています

日程	発着地	スケジュール/食事【宿泊地】
1	東京 発 カルガリー 着/発 キャンモア 着	東京(成田)発→直行便で→カルガリーへ。到着後、ロッキーのゲートタウンであるキャンモアへ(専用車約1.5時間)。キャンモアの町に3連泊します。 (機) (機) (機) 【キャンモア泊 (H)】
2	キャンモア 滞在 ヤマナスカ・クラウン登頂(2,037m)	▲樹林帯から展望地を経てガレ場を登り、ヤマナスカ・クラウンの山頂を目指します。山はカルガリー平原とロッキー山脈の縁にあり、山頂からは大平原とロッキーの山々を360度展望できます(徒歩約6時間/往復9.5km/標高差687m)。ツアーリーダーとガイドの2名体制でご案内します。下山後、キャンモアの町へ。 (機) (機) (機) 【キャンモア泊 (H)】
3	キャンモア 滞在 ハーリンピーク登頂(2,474m)	専用車でキャンモア郊外の登山口へ。▲樹林帯をジグザグに登り、徐々に高度を上げて森林限界へ。更にガレ場を登りハーリンピークの頂へ。頂上からは雄大な山々とボウ谷の景観が広がり、眼下にはキャンモアの町の全容を望むことができます(徒歩約6時間/往復7km/標高差809m)。 (機) (機) (機) 【キャンモア泊 (H)】
4	キャンモア 発 タカカウの滝観光とエメラルドレイク・ハイキング バンフ 着	専用車でヨーホー国立公園へ。落差380mを誇るカナディアンロッキー最大の瀑布、タカカウの滝を楽しんだ後、▲専用車でエメラルドレイク湖畔のハイキングへご案内します(徒歩約2.5時間)。美しい湖畔歩きをお楽しみください。下山後、専用車でバンフの町へ。人気のリゾートタウンに3連泊します。(機) (機) (機) 【バンフ泊 (H)】
5	バンフ 滞在 ボウグレイシャーフォールズ・ハイキング	専用車でアイスフィールド・パークウェイを北上し、ボウレイク湖畔の駐車場へ。▲美しい湖畔沿いのルートから始まり、巨大なボウ氷河の侵食でできた谷を徐々に登っていきます。壮大な大河、ボウリバーの源流部であるボウフォールズまでのハイキングをお楽しみください(徒歩約4時間)。(機) (機) (機) 【バンフ泊 (H)】
6	バンフ 滞在 フェアビューマウンテン登頂(2,744m)	専用車でレイクルイーズ駐車場へ。▲カナディアンロッキーの宝石と称されるレイクルイーズ湖畔からスタートし、徐々に樹林帯を登りながら鞍部であるサドルバックへ。ここからガレ場の急斜面を登り、頂上稜線をたどってフェアビューマウンテンの頂を目指します。山頂からは眼前に名峰Mt.ピクトリア(3,464m)が迫り、壮大なロッキー山脈の連なりと眼下に望む美しいレイクルイーズなど、360度の素晴らしい展望が広がります(徒歩約6時間/往復10km/標高差1,000m)。ツアーリーダーとガイドの2名体制でご案内します。(機) (機) (機) 【バンフ泊 (H)】
7	バンフ 発 バンクーバー 着/発	バンフ発→カルガリー空港へ(専用車約2時間)。バンクーバーで乗り継ぎ→東京へ。(機) (機) (機) 【機中泊】
8	東京 着	午後、東京(成田)着。(機) (機) (機)

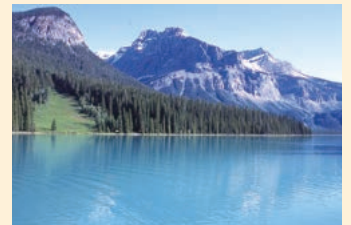
※航空会社の都合や現地事情により、日程は一部変更される場合があります。

連泊型の日程でロッキーの名峰3座登頂に挑む

万全の体調でロッキーの3座登頂に挑めるように、キャンモア、バンフのリゾートタウンでの3連泊とゆとりのある日程にしています。日程2・6日目はツアーリーダーとガイドの2名体制でご案内します。山でのエネルギー補給や、疲れを溜めずに効率的に歩くテクニクなど、登山経験の豊富なツアーリーダーによるレクチャーもあり、安心して登山に専念できます。



▲バンフの町のメインストリート



▲美しいエメラルドレイク